

地震が起きたら どうするの？

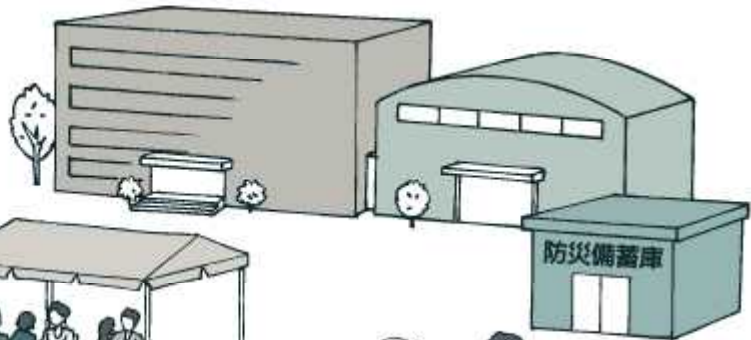
～どこに避難(ひなん)するの？～

震災時(しんさいじ) 避難場所(ひなんばしょ)に避難します。

震災時避難場所

家がこわれて自宅(じたく)に戻れない人が、避難生活(ひなんせいかつ)を送る場所(ばしょ)のこと(地域防災拠点(ちいき ぼうさい きよてん)と呼びます)=横浜市立(よこはましりつ)の小中学校(しょうちゅうがっこう)455かしょ

○地域(ちいき)の力(ちから)で避難場所を運営(うんえい)地震が起きた時に協力(きょうりょく)して避難(ひなん)生活(せいかつ)がおくれるよう、それぞれの避難場所には、運営委員会(うんえいいんかい)がおかれています。運営委員会は地域の住民(じゅうみん)、学校(がっこう)、行政(ぎょうせい)で構成(こうせい)されています



生活・安否確認情報



生活情報(せいかつじょうほう)を手に入れたり、家族(かぞく)・友人(ゆうじん)がぶじかどうかをかくにん(あんぴかくにん)ができます



炊飯器・ガスかまど

備蓄庫(びちくこ)があります。

横浜市では、避難場所の備蓄庫に、乾パン(かんぱん)・水の缶詰(かんづめ)などの たべものや、トイレットペーパーなどの生活用品(せいかつ ようひん)、仮設(かせつ)トイレ、エンジンカッターなど救助(きゅうじょ)するための機材(きざい)をおいています。

つぎのような方法(ほうほう)で、水を かくほ しています

- 災害用地下給水タンク(さいがいよう ちかきゆうすい)・・・地下式の貯水槽(ちよすいそう)を整備(せいび)しています。しんせんな水道(すいどう)水です。
- 緊急給水栓(きんきゆう きゆうすいせん)・・・地震につよい 配水幹線(はいすいかんせん)から給水(きゆうすい)する施設(しせつ)です。
- 災害用井戸協力(さいがいよう いど きょうりょく)の家・・・利用可能(りようかのう)な井戸(いど)を持っている家に協力(きょうりょく)してもらいます。

けがをしたときは

145かしょの学校(がっこう)で、応急医療(おうきゅういりょう)を行う「地域医療救護拠点(ちいき いりょう きゅうご きよてん)」が設置されます。応急医療にひつような 医療品等(いりょうひんなど)が びちく されています。